



【妊娠 SOS 窓口の役割】

相談者の困り感がどこにあるのかを把握し、誤った方法を取ったり危険な結論に至らないよう、病院や行政機関、支援に確実につなげていくこと。

<講演「成育基本法とプレコンセプションケア」についての感想>

初めて参加し初めて知った言葉だった。教育は小さいうちからと改めて実感した。医療・教育・行政とのかかわりを大切にして子供達と関わりたいと思った。・卵子の凍結について聞いたことはあったが、都道府県単位での取り組みについて初めて知り、自分にも必要になってくると感じた。	若いうちから将来の自分自身について考えることは非常に大切であるということを知り学んだ。ただ中学生や高校生などの学生は、自分の将来を考えたいというイメージがある。これをふまえると、どのように伝えていくかを考えていくことは、重要であると思う。SNSなどの活用も一つの方法であると思う。
---	--

<話題提供「妊娠SOS相談の状況」についての感想>

報道されていない、望まない妊娠の事例の多さに驚いた。これらの事例を受け、すぐに支援体制、将来への行動が素晴らしいと思った。開設時の相談件数が多いのもニーズの高さがわかる。運営の助成金が切れるということで、継続支援が難しくなる現状の中、活動されていることに頭が下がる思いです。妊娠SOSが今後とも継続してくれることを祈ります。	中高生で母親になる人が少なからずいること、自分ひとりで抱え込んでわが子を殺めてしまうというケースがあることを知りショックを受けた。このようなことが起きないためには、様々な状況の母親が相談できる環境が重要であることがわかった。相談概要では、男性からの相談もあることが予想と異なっていた。
--	--

<意見交換についての感想>

色々な人と意見交換が出来て良かった/他職種の方の話が聞けて良かった/意見を共有できよかった

会員随時募集中!

いわて思春期研究会

入会申し込み書送付先 → info_@iwate-shisyunki.jp
 入会申込書ダウンロード先 → <http://www.iwate-shisyunki.jp/entry/>
 いわて思春期研究会メーリングリスト" <member@iwate-shisyunki.jp>

いわて思春期研究会ニュースレター

第12号 2024年1月発行

発行元：〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52 岩手県立大学看護学部
 母子看護学講座内「いわて思春期研究会」事務局 FAX：019-694-3232
 作成者：岩手思春期研究会広報担当理事 米澤慎悦 黒田大介 住吉美保 佐賀唯衣

2023年度いわて思春期研究会第2回研修会が開かれます

思春期カフェ

「性の多様性、あなたはどうか考える？」

日時：2024年3月3日(日) 13時30分～15時30分
 場所：アイーナキャンパス学習室1
 参加費：会員無料、非会員500円

<プログラム>

13:30-13:35	開会 挨拶 (小林高会長)
13:35-13:50	報告「岩手県の中学校における性に関する指導の実施状況に関する調査」 副会長 佐藤卓氏
13:50-14:25	講演「緊急避妊ピル、薬局で！ 課題と方向性」 講師：県立中部病院第一産婦人科長 秋元義弘 先生
14:30-15:00	「性の多様性、あなたはどうか考える？」 基調講演 「私を生きる ～人として伝えたいこと～」 講師：岩瀬 湊 氏
15:00-15:30	フリートーク 「岩瀬さんから聞いてみよう、皆で話してみよう」 座長：県立中部病院第一産婦人科長 秋元義弘先生
15:30	閉会

参加申し込みフォーム

2023年度いわて思春期研究会第1回研修会が開かれました

2023年9月17日(日)

テーマ 「成育基本法とプレコンセプションケア」

講師 岩手県立大学看護学部 アンガホッフア司寿子先生



アンガホッフア司寿子先生からは、現在こども家庭庁でも取り組んでいるプレコンセプションケアについてお話いただきました。

プレコンセプションケアは、現時点で、子どもが欲しい/欲しくないに関わらず、将来、子どもが欲しいと思ったときに、子どもを持つことができるように、自分の健康を考えることができることを目標とするものです。

一方で「子どもをもつことを押し付ける教育にならないようにすること」「LGBTQへの支援とのジレンマ」が課題となっており、様々な切り口でアプローチするとともに、プレコンセプションケアを進める関係者自身も、自分の価値観を一旦置いて、関わっていくことが必要となってきます。

プレコンセプションケアが必要な世代と日頃から関わっている先生ならではの内容が大変参考になりました。

【成育基本法】

成育過程にある子ども及びその保護者、並びに妊産婦に対して、必要な成育医療を切れ目なく提供するための施策を総合的に推進することを目的とする理念法

妊産婦の支援から始まるところが特徴であり、子どもの抱える身体的・精神的・社会的課題を明示し、改善に取り組む

【日本におけるプレコンセプションケア】

定義

☆前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的及び社会的な健康の保持及び増進

目的

☆現在から将来にわたる自らの健康のみならず次世代の健康の保持及び増進を図り、国民全体の健康を向上すること

日本における特有の課題

- ☆性と生殖に関する教育の国際基準への未到達とそれに伴う低いヘルスリテラシー
- ☆子宮頸がんワクチン接種率や、子宮頸がん・乳がんの検診率の低さ
- ☆葉酸含有サプリメント接種率の低さ ☆低用量ピル内服率の低さ ☆女性の月経にまつわる健康問題
- ☆若い女性の低栄養・やせの増加 ☆低出生体重児の割合の増加

【プレコンノートとは】



先生から御紹介がありました国立成育医療研究センタープレコンノート
(国立成育医療研究センターホームページからダウンロードが可能です)
右のQRコードを読み込むとホームページにアクセス可能です



プレコンノートを持つ意味は？

“プレコン(プレコンセプションケア)”は、若い男女が将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康と向き合うこと、次世代を担う子どもの健康にもつながるとして近年注目されているヘルスケアです。

1年後、恋をしているかもしれない。3年後、結婚しているかもしれない。5年後、家族が増えているかもしれない。だけど今、からだところが不調気味で悩みがある18歳以上の人に読んでほしいのが“プレコンノート”です。

プレコンセプションケアのポイントを学びながら、5つのプレコンActionを起こす準備ができます。

5つのプレコンAction

- ① いまの自分のからだところを知ることができる
- ② 生活を整えることができる
- ③ 今の自分の体をチェックし、よりよくすることができる
- ④ かかりつけ医とつながることができる
- ⑤ ライフプランを立てることができる

話題提供 『子どもが生まれる前からの支援をはじめよう！』 ～にんしんSOSいわての活動から～

講師 善友乳児院 看護師太田幸子氏・相談員平原厚子氏



【SOS窓口立ち上げまでの経緯】岩手県において2019年に19歳の少女が、2021年に31歳の女性が出産直後の乳児を殺め遺棄する事件が発生。両ケースとも誰にも相談できず一人悩んだ末の結末でした。小さな命を守り、一人悩む女性の声をどうしたら拾うことができるか院内で検討し、(一社)全国妊娠SOSネットワークの支援をもらいSOS窓口が設置されました。

【主な相談概要】令和4年8月15日～令和5年7月31日

	男性	女性	計
電話相談	26	20	46
メール相談	2	53	55
計	28	73	101



【主な相談内容と概要】

- ・妊娠不安(妊娠したかも・させたかも)
- ・中絶に関すること(費用工面できない、病院を紹介してほしい)
- ・薬に関すること(妊娠検査薬、緊急避妊薬、ピル)
- ・産むか産まないか(仕事、パートナー)
- ・養子縁組に関すること
- ・その他(ひとり親医療費助成金該当かどうか、転職先への妊娠報告のタイミング、妊娠したい)
- ・10代の相談が全体の36%、20代を含めると半数以上を占める
- ・「バレたくない」「できればこのままなかったことにしたい」